

(2) 宇都宮市における高齢者の就業・起業に関する意識・実態調査

1) 調査研究のねらい

- ・高齢社会が到来することが確実な状況において、高齢者の増加を社会的にマイナスと考え対処するのではなく、高齢者を生かして活気ある社会をつくり出す方策を検討することが重要と考える。
- ・高齢者の働く環境を整えるための政策づくりにあたっては、高齢者等の就業意識等を把握する必要がある。そこで、本調査は、主にこれから高齢者の仲間に入る人たちー50歳から64歳までの「シニア世代」を対象に、働くことに対する意識等を把握するために行うものである。

2) 経過

① アンケート調査 (16.12~17.2)

調査の目的：シニアの就業・起業に関する意識の把握

調査対象：50~64歳の市民から無作為抽出した1,000名

回収結果：有効回答票 427 票（回収率 43.3%）

② ヒアリング調査 (16.6~16.12)

調査の目的：シニアの就業・起業に関する現状と意識、促進するための課題の把握

調査対象：中高齢期に起業した起業家 2 人、高齢者を活用した事業を立ち上げた企業家 1 人、中高齢者の就業・起業支援等を行っている 3 団体

3) 研究結果

(1) 調査結果

① 「生活維持」を背景とする高い就業意欲

60歳以降も働きたいとする回答・・・男性で約75%，女性で約70%

60歳以降の就業目的は・・・「経済的な理由」約70%

（「生活を維持するため」60%，生活水準をあげるため，10%）

※次いで回答の多い「生きがいを得るため」+「健康づくりのため」=約60%

⇒ 仕事を，人生を豊かにするものとしてとらえている

② 働き方の中心は「雇用」

約44%は雇用されて働きたい

起業したいのは約7%・・・「専門・技術職」「管理職」の起業意欲が高い

③ 雇用をめぐる2つのギャップ

【年齢のギャップ】

働き続けたいと考える年齢  働くことができる年齢

- ・65歳まで働きたい人の半分は60歳までしか働くことが出来ない
- ・年齢にこだわらず働きたい人の約23%は60歳までしか働くことができない
- ・雇用者の約75%は60歳までしか働くことができない

【意識のギャップ】

60 歳以降での仕事選びに重視すること $\longleftrightarrow$ 現実

- ・「自分の知識や技術が生かせる」、「働く時間が自由になる」、「働く場所が自宅から近い」、「健康を害しない」など経営者が求めるものと一致していない

④多様性－働き方，働く理由

多様な働き方，働く理由，仕事を選ぶ理由

⑤恵まれた大企業等退職者

退職金や年金，現役時代の人脈・専門知識・技術

(2)調査結果からみる課題

【基本課題は多様な働く場の確保】

【雇用以外の就業の場の確保】

【高齢者の社会的活用】

【中小企業で働くシニアへの支援】

(3)類型化と検討項目

【類型化】

雇用・・・・・・一般雇用型，楽しみ・生きがい型

※国や県等の対応（定年延長，シルバー人材センターの充実）

社会貢献・・・・社会的活用法，起業型

起業自営・・・・一般型，高齢者活用法

【検討項目】

本市においては，高齢者の雇用の確保も視野におさめつつ，社会貢献や起業などに力点をおいた検討を進める必要